

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	保育・教職実践演習B
科目基礎情報					
開設学科	こども学科	コース名	幼稚園教諭・保育士コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	15時間
単位数	1単位	授業形態	演習		
教科書/教材	豊岡短期大学テキスト、幼稚園教育要領、保育所保育指針。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	清水友康	実務経験の有無・職種	有・幼稚園教諭		
学習目的					
教職の意義と学級経営の概要・臨床場面での教師の対応について学ぶことで、学級づくりと担任の役割、問題に取り組む組織的対応力をつけることが目的となる。また、事例研究を通して、日常的に発生する学級内の問題に対応する力、課題のある子どもへの対応力、個別の教育支援計画・指導計画作成力を習得することがねらいとなる。					
到達目標					
最終的に以下6点の技術・姿勢を習得することを目指す。①ひとりひとりの幼児を大切に学級経営とはどのようなものか学ぶ、②ひとりひとりの生活環境を知り、生活を通して幼児理解を深める、③幼児の発達をみつめ、ひとりひとりへの理解を深める、④幼児ひとりひとりの保健衛生や健康に心掛け、安全に対して配慮していく⑤家庭との連携による信頼関係を築く、⑥学級担任として必要な諸表簿を確認し、記録・管理に責任を持つ。					
教育方法等					
授業概要	これまでに経験した実習を踏まえ、職務に対する責任感、コミュニケーションの重要性、幼児の理解、保育内容の指導力、学級運営力などについて総括し、実践力を身に付けられるようにする。個人ワークやグループワークも採り入れる。				
注意点	受講心得を熟読しておくこと。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。全時間を受講しなければ出席扱いとはならない。遅刻・中抜け・早退は認めない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	60%	試験と課題を総合的に評価する		
	課題・ワーク	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	20%	受講の心得厳守、グループワークへの参加態度(積極性・協調性)、表現力、思考力など		
授業計画(1回~8回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	学級経営について(1)	教職の意義と学級経営の概要、学級づくりと学級担任の役割を学び、様々な問題への組織的対応の必要性を知る。学級経営における臨床場面での教師の対応力を身に付ける。			
2回	学級経営について(2)	日常的に発生する学級内の問題について討論する(ロールプレイング)。学級づくりと学級担任の役割について討議する。			
3回	保育現場での対応	事例研究:課題のある子ども(幼児)に対する対応について学ぶ。			
4回	特別支援教育	個別の教育支援計画および指導計画を作成する。統合保育の課題と展望について検討する。			
5回	「幼保小連携」への対応と連携	学びの連続性と子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方			
6回	リスクマネジメント	信頼される保育者となるべく現場でのリスクマネジメント技術を身に付ける。			
7回	保育設計と模擬保育	保育指導案を作成する			
8回	まとめと試験	成長し続ける保育者となるために、学習のまとめ、自己の振り返り、今後へ向けての課題と単位認定試験			
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回					
15回					

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	保育・教職実践演習B	
科目基礎情報					
開設学科	こども学科	コース名	保育士コース	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	15時間
単位数	1単位	授業形態	演習		
教科書/教材	必要に応じ資料等を配布				
担当教員情報					
担当教員	三重野 真樹	実務経験の有無・職種	有・保育士		
学習目的					
<p>これまで講義や演習や保育実習で学んだ知識や技能を基盤に、保育士としての資質や能力を確認し、グループワークや模擬保育（ロールプレイング）により学生自身が自己を分析し、不足している知識や技能等を整理することで、また、就職に向け基礎的な指導力を身に付けるためグループに分かれ実際にグループ内で話し合い、保育・教職実践演習Aよりより創意工夫をもって指導計画を立案し実践することを最終目的とする。保育実践力を高めるためには、自らが行った保育実践を具体的に振り返ることが重要であるため、実践後は反省・評価、改善まで行う。</p>					
到達目標					
<p>模擬保育等を実践することにより学生自身が自己分析を行い不足している知識や技能を把握し述べることができる。</p> <p>模擬保育の実践までの過程ではグループ内で協調性（他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得る）を大切に、指導計画を立案し、全員が積極的に模擬保育の役割分担や創意工夫をし参加することができる。</p> <p>保育実践の反省・評価を生かし、修正指導案を作成することができる。</p> <p>保育・教職実践演習Aよりも内容がより工夫され、そこの学びが活かされる模擬保育を実施することができる。</p>					
教育方法等					
授業概要	<p>保育・教職実践演習A及び保育実習で学んできた知識や技能を基盤に行われる授業であり、学生が模擬保育等を通して学生自身の自己分析をし不足している知識や苦手分野を克服する場でもある。音楽・造形・運動等の課題をもとに学生がグループに分かれ、指導計画を立案し実践し反省・評価し改善する流れである。保育・教職実践演習Aより内容が高度なものが求められるためより実践に即した授業内容となっている。</p>				
注意点	<p>グループワークが多いため、公平な役割分担が行われるようにする。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業中の私語や携帯電話の使用は厳しく指導する。課題が出た場合は締切日時を守るようにする。期限が過ぎた提出物については受け取らない。</p>				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	20%	指導計画を参考に評価		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	50%	模擬保育の発表を評価		
平常点	30%	グループでの貢献度を評価			
授業計画（1回～8回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	模擬保育体験	学生が子ども役となり模擬保育を体験し内容を分析することができる			
2回	指導計画立案	指導計画立案にむけグループごとに情報収集や話しあいを行うことができる			
3回	実践向けの準備（課題1）	教材の準備や練習を行うことができる			
4回	実践向けの練習	実践向けの練習を行うことができる			
5回	模擬保育発表、反省・評価	模擬保育を実践することができ、反省評価ができる			
6回	実践向けの準備（課題2）	教材の準備や練習を行うことができる			
7回	実践向けの練習	実践向けの練習を行うことができる			
8回	模擬保育発表、反省・評価	模擬保育を実践することができ、反省評価ができる			
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回					
15回					